

健康メモ

点眼剤

広島市南区医師会監事
ひらた眼科クリニック院長

平田 壽雄

平たくいうと、

「めぐすり（目薬）」です。

昔から『二階から目薬』とい



うたとえがありますが、これは「効果のないもの」や「効き目のないこと」のことを指すようです。

しかし、現代の科学&医学の粋を集めためぐすりには素晴らしいものも多く、このうちの液体である「点眼剤」においても、近年驚くような発展があり、われわれ眼科医にとつて有力な武器（治療の糧）になってい

ます。

「点眼剤」には、①結膜炎などの感染症に効く抗生剤（抗菌剤ともいう）②細菌ではなく起こるいろいろな炎症を抑える抗炎症剤（これにはステロイドと非ステロイド剤がある）③疲れ止めや栄養補給効果のあるビタミン剤 ④花粉症などのアレルギーに効果のある抗アレルギー剤 ⑤白内障の進行を抑える点眼剤 ⑥緑内障の進行を抑える点眼剤 ⑦その他などがあります。

①や②、④や⑥の点眼剤は、どれも一〇種類以上もあり、患者さんを診察して、より早くその症状を緩和（治療するために、眼科医はどの点眼剤を用いようかと日々頭を使って診察しています。

ところで皆さんはその点眼剤の使用について、どの程度ご存知でしょうか？ 一日の点眼回数については、医師や薬剤師より指示があるので困

ることはないと思います。⑥の緑内障の点眼剤は普通一日一回や二回なので、朝または夜、またはその両方になります。また①や②の点眼剤は一日四回が原則なので、朝、昼、夕と寝る前になるでしょう。言い換えるとこれらの点眼剤は一滴（一滴で充分です！）で大体四時間くらい持続効果があるのですから、起きている時に四時間おきに入れると考えると、同様のさし方になると思います。ただ、四回の回数を一〜二回しか入られてないで効かないという患者さんがたまに再診されます。医師その他の指示に従ってほしいものです。さらに二種類以上の点眼剤を目に入れるのに、間隔は三〜五分開けてとお願いしています。これも科学的（医学的）な根拠に基づいています。